

寝たきりにせず利用者の可能性を追求

介護老人保健施設「ほのぼの苑」

運営	医療法人 正和会 (理事長 小玉敏央)
住所	秋田県湯上市昭和久保字街道下92-1
電話	018・877・7115
サービス型	介護老人保健施設、通所リハビリ、訪問看護、居宅介護支援、グループホーム他(小玉医院をはじめ、歯科診療所なども敷地内隣接)
利用定員数	入所定員100名 (通所リハビリは定員50名)
開設	1996年4月



ほのぼの苑の外観。容態が急変した人を病院へ移送できる救急車も

100床の定員のうち、気管切開をほどこした人が8名、胃ろうを含めた経管栄養の人が40名、ネブライザーによる痰の吸引が必要なものも10数名。

病棟における患者の内訳ではない。介護老人保健施設「ほのぼの苑」の話である。入職3年目の支援相談員・玉井寛さんは「入職した当時に比べて、入所してくる方の状態は明らかに重くなっている」と述べる。

いま全国の介護現場では、利用者の重篤化や医療的ケアが必要な人の増加が進んでいる。国の政策により療養病床が削減、高齢患者の入院日数も短縮され、介護サービスがその受け皿となっている状況である。

高いリスクに対応しきれない施設の中には「気管切開をしている利用者などは受けられない」とするケースも多い。だが、ほのぼの苑では、他施設で断るような重篤な利用者も積極的に受入れる。診療所が隣接するというメリットもある

が、利用者が行き場をなくすという事態を防ぐことで「地域に貢献する」(施設長・小林顕さん)という理念と向き合っているからだ。注目したいのは、どんなに重篤な人を受入れても、その人の持つ可能性や尊厳を支え続けるという方針を徹底していることだ。

そのスタートラインは「利用者を起こす」ことにある。「理事長のかけ声により、気管切開や胃ろうが、ある人でも寝かせずにせよ、日中ではできるだけ離床介助をして車いすに座っていただくという目標を掲げた」と小林施設長は述べる。中には、どうしても離床が難しい人もいる。だが、状況が改善したときに「車いすに座ることができればいい」という目標は「おむつ交換の回数やタイム」などを見つめ続け、「ベッド上で、関節の拘縮予防のための訓練などを積極的に行う」(小林施設長)という。一人ひとりの可能性に基づいたケアを入れることで現場に「あきらめ」

秋田県湯上市 介護老人保健施設「ほのぼの苑」

この風土が形となったのが、現場における数々のプロジェクト。その一つに、平成16年発足の「プロジェクトO」がある。「O(オー)」は「おむつ」の頭文字。つまり、排泄ケアにかかわるプロジェクトを意味する。

介護現場における「排泄ケア」の向上といえば、おむつ外しやトイレにおける排泄の自立といったテーマが思い浮かぶ。だが、ほのぼの苑のように重篤化した利用者が大半を占めると、一足飛びの「おむつ外し」などはかえって机上の空論になりかねない。

ある。小野さんは言う。「利用者が重篤化する中で、いつしかおむつ交換がただこなすだけの作業になっていました。その人の状態にとってどんなおむつが最適なのか、あるいはおむつ交換の回数やタイムを工夫することで、利用者に熟睡していただきたい、できる限り尊厳を傷つけない関係をつくるということが可能なのではないかとこのことを考えたのです」

そこで、複数のおむつメーカーの担当者を招いて勉強会を行ったり、安眠確保のために夜間のおむつ交換の回数を減らすなどの試みを実施し、その効果を測定して報告書にまとめた。



通所リハビリの利用者に寄り添う職員

ここで意外な効果が浮上する。おむつ交換の回数を減らせば、スキントラブルや漏れなどのリスクが一時的に大きくなる。だが、それを職員が意識することで、皮膚の観察方法や、漏れのないような当て方などを各自が工夫するようになったという。

もう一つ大きな効果をもたらした取り組みに、プロジェクトNSTがある。これは、経管栄養に頼っている人に対し、再び口から食べる喜びを実現しようとするものだ。

この取り組みも多くの介護現場で実践されているが、やはり重篤化した人が大半という状況では、時に命にかかわる状況も生まれかねない。相当に高度なノウハウが求められることになる。



STの菊池さんが見守る中、行われる利用者の言語聴覚の訓練

この取り組みで中心的役割を果たしているのが、言語聴覚士(ST)の資格を持つ菊池恵子さんだ。「ご利用者が入所される」と、その方の病歴や嚥下状態などの情報を収集します。そのうえで、他の専門職の協力を得ながら、嚥下能力を回復させるための体の工夫や頭部のマッサージなどを進めます(菊池さん)

やがて、痰の吸引回数が減ったり、少しずつ唾液が飲み込めるようになるなど

「ほのぼの苑では家族会を設けていますが、土地柄でしよつか、ご家族同士の横の情報交換が活発で皆さんの理解度がとても高いのが特徴です」(支援相談員・玉井さん)

こうした地道なコミュニケーションは、現場の職員に「あきらめない」勇気を与える糧となる。家族と職員が一丸となるほのぼの苑の姿こそ、介護施設が「脱病院の受け皿」にならざるを得ない時代を乗り越える大きな力キといえそうだ。

元気の源、ぜいたく配合。コエンザイムQ10

リメイク 発酵コエンザイムQ10は

- 元気の素を作るコエンザイムQ10
- 体内では20歳前後をピークに、加齢とともに減少
- 高品質・高純度の発酵コエンザイムQ10

コエンザイムQ10は、ほとんどすべての細胞に存在し、元気の素を作る重要な成分。しかし、加齢と共に減少してしまいます。食事からは微量しか摂れません。2つの協会から認定された高品質・高純度の「発酵コエンザイムQ10」をたっぷり120mg配合しています。

※(財)日本健康・栄養食品協会と日本コエンザイムQ協会



協和発酵バイオ

通信販売限定商品

リメイク 発酵コエンザイムQ10

通常価格1箱 3,000円

お試し価格 1,000円

健康食品は続けることが大切です。

定期購入 コースのご案内 2箱(約30日分) 4,500円

送料 無料 25% OFF

協和発酵バイオは、日本コエンザイムQ協会賛助会員です。 広告有効期限：2008年12月15日まで

思ったたら今すぐお電話で!!

0120-131-908 (FAX)

0120-04-8585 (通話料無料)

受付時間/9:00~21:00

http://www.kyowaremake.jp/q/